

週報

# こひつじ

第39巻 10号  
大津キリスト教会  
菊池郡大津町室 119  
TEL 096-293-4470  
FAX 096-293-4961  
牧師 米村 英二

を得ようとする者たちがいたのである。  
おそらくこういうことだったのだろう。

公共事業にいろいろがとびかうことなら、あるだろう。

だろう。

礼拝する者たちは、長い旅をして、神殿のあるエルサレムにやつてくる。しかし遠方から鳩や羊などささげ物を運んでくるのは困難だ。

そこで礼拝する者たちは現地でそれを手に入れたいと思う。

するとそこには商売人がいて、相場よりはるかに高い値段でそれらを売るのである。また外国から礼拝のために帰つてくるユダヤ人もいまだろう。すると両替が必要だ。そこで両替人は、これまた相場より高い手数料を彼らに要求し、私腹を肥やしていたのである。

また、そのような商売を許可した祭司たちの中には、商売人たちが法外なリベートを受け取る者もいただろ。しかも、そんな慣習が何の疑問もなく長く続いている。

「これを買えば、それだけで、おまえたちの死んだ家族は天国へゆくだろう」

と言つて、民衆の無知を利用して、免罪符を売り、それによつて庶民より莫大な金を得ていたのである。

ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。そして、宮の中に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわつてゐるのをご覧になり、細なわでむちを作つて、羊も牛もみな、宮から追い出しが、両替人の金を散らし、その台を倒し、また、鳩を売る者に言われた。「それをここから持つて行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない」（ヨハネ二の一三～一六）

## その一 イエスの怒り

過越しの祭りが近づいて、エルサレムに上られたとき、イエスは、が怒りを発せられた場面である。神殿に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちが大勢すわつてゐるのを見て、怒り、細なわでむちをの理由は、はなはだ重大なことであり出し、両替人の金を散らし、その台を倒し、そして鳩を売る者にか。

祈りの家であるべき神殿が、商売の家、強盗の巣となつていたこのである。政治が金銭で動くことなら、あらためて、その理由とは何であったか。

「それをここから持つて行け。わたしの父の家を商売の家としてはとだつた。人の信仰心を利用して莫大な富

鋭い良心を持っていたルターはそれをゆるせなかつた。そしてローマ法王に疑問を呈した。

法王は、ルターの発言の撤回を求めたが、ルターは「ノー」を突きつけた。

その瞬間に、大きな岩の塊であつた中世ヨーロッパ社会が瓦解し始め、ヨーロッパは中世から近世へと移つていつたのである。

詩人ローウェルはそれをこう歌つた。

勇敢なるルーテル、  
ノーと答えければ、  
そのノーに触れて、  
全欧洲は揺るぎたり  
(続)

\*\*\*\*\*

イエスもまた、祈りの家であるべき神殿が金銭に汚染されているのを見て、激しい怒りを覚えられたのである。

\*\*\*\*\*

## 今日の礼拝

新型コロナの流行で、この三年間、伝道集会も家庭集会もできず、毎日曜日の二回に分けられた短い時間で、唯一の教会活動となつてゐます。それでも、多くの方が忠

○第一礼拝は午前一〇時から、  
第二礼拝は午前一時から。  
○教会学校は午前一〇時から。

○説教は米村牧師。

実際に礼拝に集い、教会を支えてくださいました。そのことでは皆様

の通りです。祈りの課題、近況などをお知らせいたければ感謝です。

## 先週の礼拝

○司会は西岡潤也さん。

○説教は岩崎宏志さんでした。

また教会では、毎朝七時に祈り

ます。これも始まります。

「心のきよい者は幸いです」(マタイ五の八)の言葉から語つてくださいました。

また三年がすぎました。

まだ教会では、毎朝七時に祈ります。これも始まります。

yonemura@ja2.so-net.ne.jp

## 牧師身辺

礼拝を休まれた方に教会便りをお送りするようになつて三年がたちます。先週が一五一号です。

切手代のことを心配される方もありました。でも、わずか八四円で教会の様子を皆さんにお知らせできるのは、今まで気づかないでいましたが、とても安いものだと

読み、それから祈ります。『一日一生』を読み、それから祈ります。『一日一生』を何度も繰り返して読んだことがあります。でも、その日の聖書を思い浮かべながら祈っています。

美し、内村鑑三の『一日一生』を読み、それから祈ります。『一日一生』を何度も繰り返して読んだことがあります。でも、その日の聖書を思い浮かべながら祈っています。

句と、それについての内村鑑三の解説は、ぼくたちの心を慰め、励まし、また強くしてくれます。

うして祈りの輪が広がつていった

ぼくの前には、皆さんの名前を書いた封筒が置かれています。それ

を一枚一枚めくり、皆さんの顔を思い出しながら祈っています。

また、七、八人の祈りの仲間にも支えられています。聖歌を一曲賛美し、内村鑑三の『一日一生』を読み、それから祈ります。『一日一生』を何度も繰り返して読んだことがあります。でも、その日の聖書を思い浮かべながら祈っています。

句と、それについての内村鑑三の解説は、ぼくたちの心を慰め、励まし、また強くしてくれます。

うして祈りの輪が広がつていった

らなんと心強いことでしょう。